

制酸薬

製品群No. 10

ワークシートNo.8

リスクの程度 の評価	A 薬理作用	B 相互作用	C 重篤な副作用のおそれ	C' 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ	D 濫用のおそれ	E 患者背景(既往歴、治療状況等) (重篤な副作用につながるおそれ)	F 効能・効果(症状の悪化につながるおそれ)	G 使用方法(誤使用のおそれ)	H スイッチ化等に伴う使用環境の変化	用法用量	効能効果			
評価の視点	薬理作用	相互作用	重篤な副作用のおそれ	重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ	薬理に基づく習慣性	適応禁忌	慎重投与 (投与により障害の再発・悪化のおそれ)	症状の悪化につながるおそれ	適応対象の症状の判別に注意を要する(適応を誤るおそれ)	使用方法(誤使用のおそれ)	スイッチ化等に伴う使用環境の変化			
		併用禁忌(他剤との併用により重大な問題が発生するおそれ)	併用注意	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの		使用量に上限があるもの	適量使用・誤使用のおそれ	長期使用による健康被害のおそれ			
制酸成分	ケイ酸アルミン酸マグネシウム	スピークル 酸中和作用・制酸薬		テトラサイクリン系抗生物質・ニューキノロン系抗菌剤(これらの薬剤の効果が減弱)・併用薬剤(併用薬剤の吸収・排泄に影響)		頻度不明(悪心・嘔吐・便秘・下痢・口渇等・かゆみ)			透析療法(長期投与によりアルミニウム脳症、アルミニウム骨症)	腎障害、心機能障害、高マグネシウム血症、リン酸塩低下者、高齢者	長期大量投与により高マグネシウム血症、長期投与でアルミニウム脳症・アルミニウム骨症	通常成人1日1.5~4gを3~4回に分経口投与する。高齢者では減量。	胃・十二指腸潰瘍・胃炎(急・慢性胃炎・薬剤性胃炎を含む)、上部消化管機能異常(神経性食思不振、いわゆる胃下垂症、胃酸過多症を含む)の症状の改善	
	メタケイ酸アルミン酸マグネシウム	メタスタミン 細粒 制酸作用、抗潰瘍作用		テトラサイクリン系抗生物質・ニューキノロン系抗菌剤(抗菌薬の効果の減弱)		悪心、嘔吐、かゆみ、口渇		透析療法中	腎障害、心障害、高マグネシウム血症、リン酸塩低下者、高齢者		長期投与時・アルミニウム脳症、アルミニウム骨症、長期大量投与時・高マグネシウム血	1日1.5~4g、3~4回分服。適宜増減	次の疾患における制酸作用と症状の改善：胃・十二指腸潰瘍、胃炎、上部消化管機能異常	
	合成ヒドロタルサイト	サモールN 散 制酸作用、抗ペプシン作用、抗潰瘍作用		テトラサイクリン系抗生物質・ニューキノロン系抗菌剤(抗菌薬の効果の減弱)、他の併用薬剤(他の併用薬剤の吸収・排泄に影響)、大量の牛乳、カルシウム製剤(ミルク・アルカリ症候群)	長期投与時・アルミニウム脳症、アルミニウム骨症、		下痢、軟便、食欲不振、口渇		透析療法中	腎障害、心障害、下痢、高マグネシウム血症、リン酸塩の欠乏者、高齢者		長期投与時・アルミニウム脳症、アルミニウム骨症、長期大量投与時・高マグネシウム血	1回0.5~1.0g、3~4回症状が起こりやすい時間に合せて、食後又は食間(必要な場合は就寝前)に経口投与	胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃酸過多、急性胃炎、慢性胃炎における制酸
	酸化マグネシウム	マグラックス錠 胃内で制酸作用。腸内での水分の再吸収に抑制的に働き腸管内容物が膨張し腸管に機械的な刺激を与えて排便を容易にする。		テトラサイクリン系抗生物質・ニューキノロン系抗菌剤・セブジニル(これらの薬剤の吸収を阻害)、高カリウム血症改善イオン交換樹脂製剤(これらの効果が減弱)、活性型ビタミンD3製剤(高マグネシウム血症を発症)、大量の牛乳・カルシウム製剤(mik-alkali syndromeを発症)、ジギタリス製剤・鉄剤等(薬剤の吸収・排泄に影響)			頻度不明(高マグネシウム血症、下痢)			腎障害、心機能障害、下痢、高マグネシウム血症、高齢者		長期・大量投与により胃・腸管内に結石を形成し、腸閉塞を起したとの報告。高マグネシウム血症	1.酸化マグネシウムとして、通常成人1日0.5~1.0gを数回に分経口投与する。 2.酸化マグネシウムとして、通常成人1日2gを食前又は食後の3回に分経口投与するか、又は就寝前に1回投与する。 3.酸化マグネシウムとして、通常成人1日0.2~0.6gを多量の水とともに経口投与する。 なお、いずれの場合も年齢、症状により適宜増減する。高齢者では減量。	1.下記疾患における制酸作用と症状の改善：胃・十二指腸潰瘍、胃炎(急・慢性胃炎・薬剤性胃炎を含む)、上部消化管機能異常(神経性食思不振、いわゆる胃下垂症、胃酸過多症を含む) 2.便秘症 3.尿路確酸カルシウム結石の発生予防
	ジヒドロキソアルミニウムアミノアセテート(別名アルミニウムグリシネート)	ダイアルミンネート(ブファリン等の配合剤)配合剤のみ												

制酸薬

製品群No. 10

ワークシートNo.8

リスクの程度 の評価	A 薬理作用	B 相互作用	C 重篤な副作用のおそれ	C' 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ	D 濫用のおそれ	E 患者背景(既往歴、治療状況等) (重篤な副作用につながるおそれ)	F 効能・効果(症状の悪化につながるおそれ)	G 使用方法(誤使用のおそれ)			H スイッチ化等に伴う使用環境の変化	I スイッチ化等に伴う使用環境の変化	用法用量	効能効果	
								使用方法(誤使用のおそれ)	使用量に上 限があるもの	過量使用・誤使用 のおそれ					長期使用による健康被害 のおそれ
評価の視点	薬理作用	相互作用	重篤な副作用のおそれ	重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ	薬理に基づく 習慣性	適応禁忌	慎重投与 (投与により障害の 再発・悪化のおそれ)	症状の悪化 につながるおそれ	適応対象の 症状の判別に 注意を要する(適応を 誤るおそれ)	使用方法(誤使用のおそれ)			用法用量	効能効果	
										併用禁忌(他 剤との併用により 重大な問題が発生する おそれ)	併用注意	薬理・毒性に 基づくもの			特異体質・ア レルギー等 によるもの
乾燥水酸化 アルミニウム ゲル	ホエミゲル	制酸作用、粘 膜保護作用、 収れん作用		頻度不明(便秘・悪心・嘔 吐等・アルミ ニウム脳症、 アルミニウム 骨症等)			透析療法(長期投 与によりアルミニ ウム脳症、アルミ ニウム骨症)		リン酸塩の欠乏、 腎障害、高齢者				アルミニウム 脳症・アルミ ニウム骨症	乾燥水酸化アルミニウム ゲルとして1日1~3gを数 回に分割経口投与する。	下記疾患にお ける制酸作用 と症状の改善 胃・十二指腸 潰瘍、胃炎 (急・慢性胃 炎を含む)、上 部消化管機能 異常(神経性 食思不振、い わゆる胃下垂 症、胃酸過多 症を含む)尿 中リン排泄 増加に伴う尿 路結石の発生 予防
炭酸水素ナ トリウム	重曹錠 500mg「メル ク」	制酸作用。尿 酸排泄抑制 作用(尿のpH をアルカリ性 にする)、尿 路結石の予 防。	マンデル酸へ キサミン(併用 薬剤の効果を 減弱)	大量の牛乳・カルシウム製 剤[milk-alkali syndrome(高 カルシウム血症・高窒素血 症・アルカローシス等)]、 他の併用薬剤(併用薬剤の 吸収・排泄に影響)			高ナトリウム血 症、浮腫、妊娠中 毒症等のナトリウ ム摂取制限(症状 悪化)		重篤な消化性潰 瘍、腎障害、心機 能障害、肺機能障 害、低カルシウム 血症等の電解質失 調				重篤な消化性潰 瘍患者において胃 酸の二次的分泌 -リバウンド現象-の 可能性	炭酸水素ナトリウムとし て、1日3~5g(6錠~10錠) を数回に分割経口投与す る。 高齢者では減量。	胃・十二指腸 潰瘍、胃炎 (急・慢性胃 炎、薬剤性胃 炎を含む)、上 部消化管機能 異常(神経性 食思不振、い わゆる胃下垂 症、胃酸過多 症を含む)にお ける制酸作用 と症状の改善 、アンダーシ スの改善、尿酸 排泄の促進と 痛風発作の予 防
炭酸マグネ シウム	「純生」炭 マ	制酸作用。効 力は酸化マグ ネシウムの約 1/2。瀉下作 用。硫酸マグ ネシウムに劣 る。 非吸収性であり、アルカ ローシスを生 じない。		テトラサイクリン系抗生物質・ ニューキノロン系抗菌剤・エ チドロン酸ナトリウム・セフ ジニル(これらの薬剤の効果 が減弱)、他の併用薬剤(併 用薬剤の吸収・排泄に影響)、 大量の牛乳・カルシウム 製剤[milk-alkali syndrome (高カルシウム血症・高窒素 血症・アルカローシス等)]			頻度不明(高 マグネシウム 血症・下痢)		腎障害、心機能障 害、高マグネシウ ム血症、下痢、高 齢者				長期大量投 与で高マグネ シウム血症	1日2gを数回に分割経 口投与。高齢者では減量 2.1日3~8gを頓用又は 数回に分割経口投与。 高齢者では減量。	1.胃・十二指腸 潰瘍、胃炎 (急・慢性胃 炎、薬剤性胃 炎を含む)、上 部消化管機能 異常(神経性 食思不振、い わゆる胃下垂 症、胃酸過多 症)における制酸 作用と症状の 改善 2.便秘症

制酸成分

制酸薬

製品群No. 10

ワークシートNo.8

リスクの程度 の評価	A 薬理作用		B 相互作用		C 重篤な副作用のおそれ		C' 重篤ではないが、注意 すべき副作用のおそれ	D 濫用のお それ	E 患者背景(既往歴、治療状況等) (重篤な副作用につながるおそれ)	F 効能・効果(症状の悪化 につながるおそれ)		G 使用方法(誤使用のおそれ)			H スイッチ 化等に伴う 使用環境の 変化	用法用量	効能効果
	評価の視点	薬理作用	相互作用		重篤な副作用のおそれ		重篤ではないが、注意す べき副作用のおそれ	薬理に基づく 習慣性	適応禁忌	慎重投与 (投与により障害の 再発・悪化のおそ れ)	症状の悪化 につながるお それ	適応対象の 症状の判別 に注意を要 する(適応を 誤るおそれ)	使用方法(誤使用のおそれ)				
			併用禁忌(他 剤との併用に より重大な問 題が発生する おそれ)	併用注意	薬理・毒性に 基づくもの	特異体質・ア レルギー等 によるもの	薬理・毒性に 基づくもの	特異体質・ア レルギー等 によるもの					使用量に上 限があるもの	過量使用・誤使 用のおそれ	長期使用に よる健康被 害のおそれ		
制酸成分	沈降炭酸カルシウム	沈降炭酸カルシウム	制酸作用	テトラサイクリン系抗生物質(併用薬剤の効果が減弱)、他の併用薬剤(併用薬剤の吸収・排泄に影響)、牛乳[milk-alkali syndrome(高カルシウム血症・高窒素血症・アルカローシス等)]、ビタミンD(高カルシウム血症)			5%以上又は頻度不明(高カルシウム血症・アルカローシス等の電解質失調・腎結石・尿路結石・悪心・嘔吐・便秘・下痢)、0.1%未満(胃酸の反動性分泌)	5%以上又は頻度不明(過敏症)		甲状腺機能低下症又は副甲状腺機能亢進症(症状悪化)	腎障害、心機能障害、肺機能障害、高カルシウム血症、便秘、高齢者	胃酸の反動性分泌				沈降炭酸カルシウムとして、1日1~3gを3~4回に分割経口投与。高齢者では減量。	胃・十二指腸潰瘍、胃炎(急・慢性胃炎を含む)、上部消化管機能異常(神経性食思不振、いわゆる胃下垂症、胃酸過多症を含む)の症状の改善
	ロートエキス	ロートエキス 散「ホエイ」	副交感神経抑制作用:アセチルコリンのムスカリン作用と競合的に拮抗。胃酸又はペプシンの分泌を抑制。	三環系抗うつ剤・フェノチアジン系薬剤・モノアミン酸化酵素阻害剤・抗ヒスタミン剤・イソニアジド(抗コリン作用の増強)			頻度不明(視調節障害・散瞳・羞明・めまい・霧視・調節障害等)・口渇・悪心・嘔吐・便秘等・排尿障害・頭痛・頭暈感・めまい等・頻脈等・顔面潮紅)自動車の運転等危険を伴う機械の操作	頻度不明(過敏症)		線内障(症状悪化)、前立腺肥大による排尿障害(症状悪化)、重篤な心疾患(症状悪化)、麻痺性イレウス(症状悪化)。	前立腺肥大、うつ血性心不全、不整脈、潰瘍性大腸炎、甲状腺機能亢進症、高温環境、高齢者、妊婦または妊娠している可能性のある婦人、授乳婦					ロートエキスとして、1日20~90mg(本剤 0.2~0.9g)を2~3回に分割経口投与。	胃酸過多・胃炎・胃・十二指腸潰瘍・痙攣性便秘における分泌・運動亢進並びに疼痛

制酸薬

製品群No. 10

ワークシートNo.8

リスクの程度 の評価	A 薬理作用	B 相互作用		C 重篤な副作用のおそれ		D 濫用のお それ	E 患者背景(既往歴、治療状況等) (重篤な副作用につながるおそれ)	F 効能・効果(症状の悪化 につながるおそれ)		G 使用方法(誤使用のおそれ)			H スイッチ 化等に伴う 使用環境の 変化	用法用量	効能効果	
		薬理作用	相互作用		重篤な副作用のおそれ			薬理に基づく 習慣性	適応禁忌	慎重投与 (投与により障害の 再発・悪化のおそ れ)	症状の悪化 につながるお それ	適応対象の 症状の判別 に注意を要 する(適応を 誤るおそれ)				使用方法(誤使用のおそれ)
評価の視点			併用禁忌(他 剤との併用 により重大な 問題が発生す るおそれ)	併用注意	薬理・毒性に 基づくもの	特異体質・ア レルギー等 によるもの	薬理・毒性に 基づくもの	特異体質・ア レルギー等 によるもの				使用量に上 限があるもの	過量使用・誤使 用のおそれ	長期使用に よる健康被 害のおそれ		
胃酸分泌抑制成分	塩酸ピレンセ ピン	カストロセ ピン錠	選択的ムスカ リン受容体拮 抗薬。酸分泌 抑制作用、抗 ガストリン作 用		無顆粒球症 (頻度不明)	アナフィラキ シー様症状 (頻度不明)	0.1~5%未 満(口渴・便 秘・下痢・悪 心・嘔吐)。 0.1%未満 (歯肉痛・膨 満感・排尿困 難・残尿感・ AST(GOT)上 昇・ ALT(GPT)上 昇・心悸亢 進・頭重感・ たちくらみ・脱 力感・嘔声・ 眼のちらつ き・眼の乾燥 感に伴う流 涙・眼の調節 障害) 自動車の運 転等危険を 伴う機械の 操作	0.1~5%未 満(過敏症)	過敏症の既往歴	前立腺肥大、緑内 障、妊婦又は妊娠 している可能性 のある婦人、授乳婦、 低出生体重児、新 生児、乳児、幼児 又は小児、高齢者					1回1錠(塩酸ピレンセピン 無水物として25mg)を、1 日3~4回経口投与。 高齢者では減量。	急性胃炎・慢性 胃炎の急性 増悪期の胃粘 膜病変(びらん、出血、発 赤、付着粘液)並びに消化器 症状の改善、 胃潰瘍・十二 指腸潰瘍

健胃薬

製品群No. 11

ワークシートNo.9

リスクの程度 の評価	A 薬理作用		B 相互作用		C 重篤な副作用のおそれ		C' 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		D 濫用のおそれ	E 患者背景(既往歴、治療状況等) (重篤な副作用につながるおそれ)		F 効能・効果(症状の悪化につながるおそれ)		G 使用方法(誤使用のおそれ)		H スイッチ化等に伴う使用環境の変化	用法用量	効能効果	
	評価の視点	薬理作用	相互作用		重篤な副作用のおそれ		重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		薬理に基づく習慣性	適応禁忌	慎重投与 (投与により障害の再発・悪化のおそれ)	症状の悪化につながるおそれ	適応対象の症状の判別に注意を要する(適応を誤るおそれ)	使用方法(誤使用のおそれ)		スイッチ化等に伴う使用環境の変化			
			併用禁忌(他剤との併用により重大な問題が発生するおそれ)	併用注意	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの						使用量に上限があるもの	過量使用・誤使用のおそれ	長期使用による健康被害のおそれ			
酵母	乾燥酵母「ホエイ」	乾燥酵母は含有する諸成分が総合して栄養補給、代謝機能促進、食欲増進、整腸などの薬効を現す。					強度不明(大量投与による下痢)								大量で下痢			乾燥酵母として、通常成人1日5~10gを3回に分けて経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。	ビタミンB群、たん白質の需要が増大し、食事からの摂取が不十分な際の補給
胃腸機能調整成分	塩化カルニチン	アベタイン液	副交感神経興奮薬:胃液中のペプシン量と総酸度の増加				強度不明(胸やけ、嘔気等)				過酸症(増悪)、急性性肺炎又は慢性肺炎で急性増悪がみられる(症状が増悪)	妊婦又は妊娠している可能性のある婦人、授乳婦、新生児・未熟児						塩化カルニチンとして、通常成人1日100~600mg(本剤1~6 mL)を3回に分けて経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。	消化管機能低下のみられる慢性胃炎
	マレイン酸トリメブテン	セレキノン錠	胃腸機能調整薬:運動調節作用、運動機能障害				0.1%未満[便秘、下痢、腹痛、口渇、口内しびれ感、悪心、嘔吐、心悸亢進、眠気、めまい、けん怠感、頭痛、AST(GOT)・ALT(GPT)の上昇、排尿障害、尿閉]	0.1%未満(過敏症)				妊婦又は妊娠している可能性のある婦人、授乳婦、小児						1.マレイン酸トリメブテンとして、通常成人1日量300mg(錠:3錠、細粒:1.5g)を3回に分けて経口投与。高齢者では減量。 2.マレイン酸トリメブテンとして、通常成人1日量300~600mg(錠:3~6錠、細粒:1.5~3.0g)を3回に分けて経口投与。高齢者では減量。	1.慢性胃炎における消化器症状(腹部疼痛、悪心、あじ気、腹部膨満感) 2.過敏性腸症候群

整腸薬

製品群No. 12

ワークシートNo.10

リスクの程度 の評価	A 薬理作用		B 相互作用		C 重篤な副作用のおそれ		C' 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ	D 濫用のおそれ	E 患者背景(既往歴、治療状況等) (重篤な副作用につながるおそれ)		F 効能・効果(症状の悪化につながるおそれ)			G 使用方法(誤使用のおそれ)			H スイッチ化等に伴う使用環境の変化	用法用量	効能効果
	評価の視点	薬理作用	相互作用		重篤な副作用のおそれ				薬理に基づく習慣性	適応禁忌	慎重投与 (投与により障害の再発・悪化のおそれ)	症状の悪化につながるおそれ	適応対象の症状の判別に注意を要する(適応を誤るおそれ)	使用方法(誤使用のおそれ)					
			併用禁忌(他剤との併用により重大な問題が発生するおそれ)	併用注意	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの					使用量に上	過量使用・誤使用のおそれ	長期使用による健康被害のおそれ				
乳酸菌成分	アシトフィルス菌末																		
	ビフィズス菌末	ビフィダー	ビフィズス菌は、腸内で増殖し、乳酸と酢酸を産生して腸内菌叢の正常化をはかり、整腸作用をあらわす(ビオフェルミン錠)				頻度不明(軟便)										通常、成人1日3~6錠を3回に分割経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。	効能又は効果 腸内菌叢の異常による諸症状の改善	
	ラクトミン	フソウラクトミン末	ラクトミンは、腸内菌叢異常の原因を除き、バランスの回復、諸症状の改善に有効														通常成人1日3~9gを3回に分割経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。	腸内菌叢の異常による諸症状の改善	
	ラックビー	ラックビー／ラックビー微粒	腸内菌叢改善作用 健康成人に本剤を投与したところ、ビフィズス菌が増殖し、腸内の優勢菌叢を増し、腸内菌叢の正常化を促すとともに、ビフィズス菌により産生される酸により、腸内pHを低下させ、有害細菌が増殖し難い環境をつくる。			アナフィラキシー様症状(頻度不明)	0.1~5%未満(腹部膨満感)		本剤過敏症の既往歴、牛乳に対してアレルギーあり【アナフィラキシー様症状を起こす】							通常成人1日3~6gを3回に分割経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。	腸内菌叢の異常による諸症状の改善		
	ラクボン	ラクボン	本剤は腸管内で発芽・繁殖し(マウスの実験から)、乳酸を産生して腸内の腐敗細菌群の増殖を抑制して、整腸作用を営む。														通常成人1日3~6gを3回に分割経口投与する。小児は通常1日1.5~3gを3回に分割経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。	腸内菌叢の異常による諸症状の改善	
酪酸菌成分	宮入菌末	ミヤBM細粒	腸内細菌に対する作用、化学療法剤投与時における整腸作用・その他整腸作用を有する														腸内菌叢の異常による諸症状の改善	通常、成人1日1.5g~3gを3回に分割経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。	

消化薬

製品群No. 13

ワークシートNo.11

リスクの程度 の評価	A 薬理作用	B 相互作用		C 重篤な副作用のおそれ		C <sup>1</sup> 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ	D 濫用のおそれ	E 患者背景(既往歴、治療状況等) (重篤な副作用につながるおそれ)		F 効能・効果(症状の悪化につながるおそれ)	G 使用方法(誤使用のおそれ)			H スイッチ化等に伴う使用環境の変化	用法用量	効能効果
		薬理作用	相互作用		重篤な副作用のおそれ			薬理に基づく習慣性	適応禁忌		慎重投与 (投与により障害の再発・悪化のおそれ)	症状の悪化につながるおそれ	適応対象の 症状の判別に注意を要する(適応を誤るおそれ)			
評価の視点		併用禁忌(他剤との併用により重大な問題が発生するおそれ)	併用注意	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの									使用量に上 限があるもの
でんぶん消化酵素 蛋白消化酵素	ジアスターゼ	ジアスターゼ	アミラーゼとしてでんぶん分解をする。				5%以上または頻度不明(過敏症)		本剤に対し過敏症 既往歴						1回0.3~0.5g、1日3回、適宜増減	主として炭水化物の消化異常症状の改善
	ジアスマン	単味なし														
	ニューラーゼ	単味なし														
	プロザイム	単味なし														
脂肪消化酵素	ホリパーゼ	単味なし														
	リパーゼ	単味なし														
繊維消化酵素	セルラーゼ	単味なし														
	セルロシン	単味なし														
複合消化酵素	タカヂアスターゼ	タカヂアスターゼ	主として炭水化物の消化				頻度不明(過敏症)								1回0.2~0.3g、1日3回、適宜増減	主として炭水化物の消化異常症状の改善
	パンクレアチン	パンクレアチン	消化作用				5%以上または頻度不明(過敏症)		本剤過敏症既往歴、ウシまたはブタ蛋白質に対し過敏症既往歴				直ちに飲み干す(小児が過って本剤を大量に停滞させたため、口内炎、口腔内潰瘍を起こしたとの報告がある)、粉末を吸入しない(気管支けいれん、鼻炎の報告)		1回1g、1日3回、適宜増減	消化異常症状
	ピオヂアスターゼ	単味なし														
	ピオタミラーゼ	単味なし														

消化薬

製品群No. 13

ワークシートNo.11

リスクの程度 の評価	A 薬理作用	B 相互作用	C 重篤な副作用のおそれ	C' 重篤ではないが、注意 すべき副作用のおそれ	D 濫用のお それ	E 患者背景(既往歴、治療状況等) (重篤な副作用につながるおそれ)	F 効能・効果(症状の悪化 につながるおそれ)	G 使用方法(誤使用のおそれ)	H スイッチ 化等に伴う 使用環境の 変化	用法用量	効能効果				
評価の視点	薬理作用	相互作用	重篤な副作用のおそれ	重篤ではないが、注意す べき副作用のおそれ	薬理に基づく 習慣性	適応禁忌	慎重投与 (投与により障害の 再発・悪化のおそれ)	症状の悪化 につながるお それ	適応対象の 症状の判別 に注意を要 する(適応を 誤るおそれ)	使用方法(誤使用のおそれ)	スイッチ化 等に伴う使用 環境の変化	用法用量	効能効果		
		併用禁忌(他 剤との併用 により重大な 問題が発生す るおそれ)	併用注意	薬理・毒性に 基づくもの	特異体質・ア レルギー等 によるもの	薬理・毒性に 基づくもの	特異体質・ア レルギー等 によるもの			使用量に上 限があるもの	過量使用・誤使 用のおそれ	長期使用に よる健康被 害のおそれ			
胆汁成分	ウルソデオキシコール酸	ウルソ錠	利胆作用及び胆汁うっ滞改善作用、肝機能改善作用、胆石溶解作用	スルフォニル尿素系経口糖尿病用薬(血糖降下作用増強)、コレステラミン等・制酸剤・脂質低下剤(本剤の作用減弱)	間質性肺炎(頻度不明)	1~5%未満(下痢)、0.1~1%未満(悪心、食欲不振、胸やけ、AST(GOT)・ALT(GPT)・ALP上昇)、0.1%未満(嘔吐、腹痛、便秘、胃不快感等、全身けん怠感、めまい、白血球減少)、頻度不明(ビリルビン上昇、γ-GTP上昇)	0.1~1%未満(過敏症)	完全胆道閉塞(症状増悪)、劇症肝炎(症状増悪)	重篤な腫瘍疾患、消化性潰瘍、胆管胆石、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人、原発性胆汁性肝硬変における肝機能の改善を目的で経変期中で高度の黄疸のある場合	原発性胆汁性肝硬変における肝機能の改善に於いて1日900mgまで			1.1回50mgを1日3回経口投与する。 2.1日600mgを3回に分割経口投与。 3.1日600mgを3回に分割経口投与する。増量する場合は1日最大投与量は900mgとする。 高齢者は用量に注意する	1.下記疾患における利胆(胆道(胆管・胆のう)系疾患及び胆汁うっ滞を伴う肝疾患)、慢性肝疾患における肝機能の改善、下記疾患における消化不良(小腸切除後遺症、炎症性小腸疾患) 2.外殻石灰化を認めないコレステロール系胆石の溶解 3.原発性胆汁性肝硬変における肝機能の改善	
胆汁末	デヒドロコール酸	デヒドロコール酸注射液			ショック(注射投与による)(頻度不明)	頻度不明(悪心・嘔吐、軟便、下痢、発赤、全身掻痒感、悪寒、発熱、咳嗽、頭痛、不快感)		完全胆道閉塞(病像の悪化)、急性期の肝・胆道疾患(炎症に悪影響)、重篤な肝障害(悪化)、気管支喘息・アレルギー疾患(ショックの報告)	高齢者、12歳以下の小児、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人				大量投与により原疾患の悪化	1日100~1000mgを1~3日間隔で静注。適宜増減	下記疾患における利胆(胆道(胆管・胆のう)系疾患および胆汁うっ滞を伴う肝疾患)



制酸・健胃・消化・整腸を2以上標榜するもの

製品群No. 14

ワークシートNo.12

リスクの程度 の評価	A 薬理作用		B 相互作用		C 重篤な副作用のおそれ		C' 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ	D 濫用のおそれ	E 患者背景(既往歴、治療状況等) (重篤な副作用につながるおそれ)	F 効能・効果(症状の悪化につながるおそれ)	G 使用方法(誤使用のおそれ)			H スイッチ化等に伴う使用環境の変化	用法用量	効能効果	
	評価の視点	薬理作用	相互作用		重篤な副作用のおそれ		重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ	薬理に基づく習慣性	適応禁忌	慎重投与 (投与により障害の再発・悪化のおそれ)	症状の悪化につながるおそれ	適応対象の症状の判別に注意を要する(適応を誤るおそれ)	使用方法(誤使用のおそれ)				スイッチ化等に伴う使用環境の変化
			併用禁忌(他剤との併用により重大な問題が発生するおそれ)	併用注意	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの					使用量に上限があるもの	過量使用・誤使用のおそれ	長期使用による健康被害のおそれ		
	アズレンスルホン酸ナトリウム	アズノール細粒	胃炎・胃潰瘍治療薬 粘膜抵抗強化作用を有し、潰瘍病巣を保護する				頻度不明(下痢・便秘・膨満感・腹痛・悪心・嘔吐等)									アズレンスルホン酸ナトリウムとして、1回2mg(アズノール細粒(0.4%)として0.5g、アズノール細粒(1%)として0.2g)を1日3回食前に経口投与(1回量を約100mLの水又は微温湯に溶解することが望ましい)。	胃炎・胃潰瘍における自覚症状及び他覚所見の改善
	アルジオキサ	イサロン	胃炎・胃潰瘍治療薬 粘膜抵抗強化作用を有し、組織修復を促進する	テトラサイクリン系抗生物質・ニューキノロン系抗菌剤(併用薬の作用減弱)			0.1~5%未満(便秘)			透析療法(アルミニウム脳症・アルミニウム骨症)		腎障害、高齢者			アルミニウム脳症・アルミニウム骨症(腎障害患者)	アルジオキサとして1日300~400mgを3~4回に分けて経口投与	胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃炎の自覚症状及び他覚所見の改善
	グリチルリチン酸塩	グリチルリチン酸モノアンモニウム・グリチロン注一号	抗炎症作用	ループ利尿剤・チアジド系およびその類似降圧利尿剤(低カリウム血症)、甘草(偽アルドステロン症)	偽アルドステロン症(頻度不明)、横紋筋融解症(グリチルリチン酸または甘草を含有する製剤)					偽アルドステロン症、ミオパシー、低カリウム血症(低カリウム血症、高血圧症等を悪化)		高齢者、妊婦小児等		長期適用により偽アルドステロン症	グリチルリチンとして、通常成人1日1回40mgを皮下注射する。なお、年齢、症状により適宜増減する。	薬疹	
粘膜修復成分	L-グルタミン	グルミン顆粒	胃潰瘍・十二指腸潰瘍治療薬 粘膜抵抗強化作用を有し、組織修復を促進する				0.1~5%未満(便秘、口渇、悪心、顔面紅潮)									1日1~2gを3~4回に分けて経口投与。高齢者では減量。	胃潰瘍、十二指腸潰瘍の自覚症状及び他覚所見の改善
	ゲファルナート	ゲファニールカプセル	胃潰瘍・十二指腸潰瘍治療薬 粘膜抵抗強化作用を有し、組織修復を促進する				0.1~5%未満(便秘、口渇、悪心、上腹部不快感)、0.1%未満[口内炎、下痢、舌炎、AST(GOT)・ALT(GPT)軽度上昇]	0.1%未満(過敏症)		妊婦又は妊娠している可能性のある婦人		高齢者				ゲファルナートとして1回50~100mgを1日2~3回経口投与。高齢者では減量。	急性胃炎・慢性胃炎の急性増悪期の胃粘膜病変(びらん、出血、発赤、急性潰瘍)の改善、胃潰瘍・十二指腸潰瘍
	スクラルファート	アルサルミン錠	胃炎・消化性潰瘍治療薬 粘膜抵抗強化作用を有し、潰瘍病巣を保護する				0.1~5%未満(便秘、口渇、悪心)、0.1%未満(嘔気等)	頻度不明(発疹、蕁麻疹等)		透析療法(長期投与によりアルミニウム脳症、アルミニウム骨症)		腎障害(アルミニウム脳症、アルミニウム骨症)、リン酸塩の欠乏(リン酸塩の吸収阻害)、経管栄養処置・低出生体重児および新生児発育不全、高齢者			アルミニウム脳症・アルミニウム骨症等	1回1gずつ、1日3回経口投与。	胃・十二指腸潰瘍、急性胃炎、慢性胃炎の急性増悪期の胃粘膜病変(びらん、出血、発赤、急性潰瘍)の改善

制酸・健胃・消化・整腸を2以上標榜するもの

製品群No. 14

7-シートNo.12

リスクの程度 の評価	A 薬理作用	B 相互作用		C 重篤な副作用のおそれ		D 濫用のおそれ	E 患者背景(既往歴、治療状況等) (重篤な副作用につながるおそれ)	F 効能・効果(症状の悪化 につながるおそれ)			G 使用方法(誤使用のおそれ)	H スイッチ 化等に伴う 使用環境の 変化	用法用量	効能効果		
		併用禁忌(他 剤との併用 により重大な 問題が発生する おそれ)	併用注意	重篤な副作用のおそれ	重篤ではないが、注意す べき副作用のおそれ			薬理に基づく 習慣性	適応禁忌	慎重投与 (投与により障害の 再発・悪化のおそ れ)					症状の悪化 につながるお それ	適応対象の 症状の判別 に注意を要 する(適応を 誤るおそれ)
粘 膜 修 復 成 分	塩酸セトラキサート	ノイエルカプセル	胃炎・胃潰瘍 治療薬。防御 因子を強化し、 胃粘膜微小 循環改善 作用を有する					0.1~1%未満 (口渇、悪心、 嘔吐、下痢、 便秘、胃部不 快感・膨満 感)、頻度不 明(IAS (GOT)上昇・ ALT(GPT)上 昇等)	0.1~1%未満 (過敏症)						塩酸セトラキサートとして1 回200mg(1カプセルまたは 細粒0.5g)を1日3~4回食 後および就寝前に経口投 与	急性胃炎・慢 性胃炎の急性 増悪期の胃粘 膜病変(びら ん、出血、発 赤、急性潰瘍) の改善、胃潰 瘍
	ソファルコン	セスファルコ カプセル	胃炎・胃潰瘍 治療薬。防御 因子を強化し、 粘膜保 護・組織修復 作用を有する					頻度不明(便 秘、口渇、胸 やけ)	頻度不明(過 敏症)						ソファルコンとして1回 100mgを1日3回経口投与	急性胃炎・慢 性胃炎の急性 増悪期の胃粘 膜病変(びら ん、出血、発 赤、急性潰瘍) の改善、胃潰 瘍
	メチルメチオ ニンスルホニ ウムクロライ ド	キャベジンU コーワ錠	胃炎・消化性 潰瘍・慢性肝 疾患治療薬。 防御因子を 強化し、組織 修復作用を 有する。また 肝障害改善 作用を有す る。						0.1%未満(便 秘、下痢、あ い気等)	0.1%未満(過 敏症)						1回25~75mgを1日3回経 口投与。 高齢者では減量。
消 泡 成 分	シメチルホリ シロキサソ	ガスコン錠	胃内有泡性 粘液除去作 用を有し、消 化管内ガスを 駆除する					0.1~596未 満(軟便、胃 部不快感、下 痢、腹痛)。 0.196未満 (嘔吐、嘔 気、食欲不 振、胃部重 圧感、頭痛)							1. 1日120~240mgを食後 又は食間の3回に分けて経 口投与 2. 検査15~40分前に40~ 80mgを約10mLの水ととも に経口投与 3. 検査3~4日前より1日 120~240mgを食後又は食 間の3回に分けて経口投与	1. 胃腸管内の ガスに起因す る腹部症状の 改善 2. 胃内視鏡検 査時における 胃内有泡性粘 液の除去 3. 腹部X線検 査時における 腸内ガスの駆 除